

提出日 2020年1月16日

## 2019年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「石垣公設市場の歴史と人々がくつろげるゆんたく家について」

氏名：大城璃桜、花城友璃乃

所属学部学科：人文学部 こども文化学科

### I. 初めに

石垣島には多くの観光スポットがある。実際そこで働く方々と交流し、取り組みや歴史について知る中で、石垣島の魅力に迫っていきたい。

### II. 研究の目的、動機

石垣島は、観光地として有名であることは知られていたが、どのような場所があるのか、どのような取り組みをしているのか、具体的なことがわからなかったため、調べてみようと思った。

### III. 研究方法、地域、期間

研究方法：図書館（沖縄大学）で資料収集、石垣島で地域の人々にインタビュー

地域：石垣島（石垣市大川）

期間：2019年9月2日～9月4日（2泊3日）

### IV. 結果

石垣公設市場の歴史について

1899（明治 32）年、石垣に最初の市場が設置された。場所は当時浜から近かった現在の八重山郵便局の南側で、そこでは魚が売られていた。その後、1904（明治 37）年にかつての大川村番所（警備や見張りのために設置された番人（見張りをする人）が詰めるために設けられた施設）であった現在の公設市場の場所に移った。村営の公設市場として整備され、地域住民の日常生活を支えている大切な商業施設となった。ここで従事している人は地元の人であり、しかも女性である。市場の中央には井戸があり、井戸を挟んで両側に肉や魚を売る瓦屋根の建物があつた。その周りには、露天に板台が置かれ、そこに魚が並べられて販売されていた。夕方から夜にかけては、最もにぎわいを見せる時間であり、夜は松の樹脂を燃やして明かりをとっていた。市場は四箇（当時あつた登野城村、大川村、石

垣村、新川村)の住民だけでなく、近在の人や離島からも買い物に来る人がいた。市場はその後、1957年(昭和33)に全面改修が行われ、新装開設された。現在の公設市場は、地階は精肉、鮮魚などの生鮮食品、階段を上って1階は、島のお土産品がそろった石垣市特産品販売センターと衣料品店、2階はいちば食堂、そしてあやばにキッズ保育園などとなっている。生鮮食品のフロアには、現在10店舗が入居している。

#### 人々がくつろげるゆんたく家

2000年6月30日に「まちなか交流館ゆんたく家」が設立された。「まちなか交流館ゆんたく家」は、石垣市が都市再生整備計画に基づき、中央商店街の銀座通りに面して、建てられた。TM石垣では、同施設を「中心市街地活性化の拠点」と位置づけ、商店街3組織で協議会を設立し、共同で活性化事業に取り組むことにしている。ゆんたく家はまちづくり交付金事業(2006年度から5カ年計画)の一環として、市が3400万円をかけて整備した、木造赤瓦家屋を一部再現した建物である。1番座(客室)、2番座(畳間)を再現し、もともとあった古井戸も手動式ポンプをつけて活用した。1階の1番座・2番座は、普段は市民や観光客のゆんたく、休憩場所として開放しているため、自由に利用することができる。また、八重山の伝統芸能や歴史文化などを発表、発信する場としてや、サークル活動等の発表の場、ギャラリー等として利用できる。2階のフリースペースは、各種会議、会合、市民や観光客向けの教室や活動等に利用できる。

#### V. 考察、分析

ゆんたく家を訪れた際、1階の畳間で勉強をしている小学生や、寝ている少年や弁当を食べている女の子や、ゆんたくしているおばあちゃん達など、様々な人がいた。このように、ゆんたく家は誰でも自由に過ごすことのできる、憩いの場であることが分かった。また、そこで初めて会う人同士がコミュニケーションをとっている様子が見られ、人々の居場所となっている大切な場所であることが分かった。石垣島での行商(商品を持って一軒一軒をたずね、小売りすること。また、その小売り商人。)は、漁家や農家の婦人たちが、魚、甘藷(かんしょ)、野菜などを頭上に載せて市街地を戸口から戸口へと売り歩いたのが特徴であった。漁民の婦人たちは、「イユコンチョーラニ」(魚を買ってくれませんか)と言って、魚をバーキグラー(小籠)に入れて頭上に載せて売り歩くのが日常で、時間はだいたい、お昼前後から夕刻までであった。魚売りは、頑健な体とバイタリティーに富んだ糸満から来た婦人たちの活躍が目立った。今の石垣の公設市場では、本土から来て働いている人と糸満から来ている人が多いことが分かった。このことから、昔も現在も多くの糸満の人々が漁業に携わって活躍して働いていることが分かった。昔の歴史が、今も続いていることに気づけた。

## VI. 今後の展望

今回石垣島にきて、公設市場の歴史や「中心市街地活性化の拠点」となった「まちなか交流館ゆんたく家」の取り組みについて、学ぶことができた。初めて会うにも関わらず、公設市場で働く方々や地域の方々は私たちのインタビューに積極的に答えてくれた。石垣島には、「川平湾」など他にも多くの観光スポットがあるが、ぜひそこへ行き魅力を知り、また課題点についても調べ、自分たちができる取り組みについて考えて行動していきたい。

## VII. 終わりに

調査をする上で、積極的に地域の方々にインタビューをし、様々な情報を得ることができたと思う。また石垣島の方々は、地域の人々同士の交流が深いことを感じた。またぜひ、石垣島を訪れ、多くの人と交流し新たな発見をしていきたい。

## VIII. 参考文献、調査協力

参考文献 [https://tmishigaki.localinfo.jp/pages/404426/page\\_201604051756](https://tmishigaki.localinfo.jp/pages/404426/page_201604051756)

石垣市史

調査協力 石垣公設市場で働く方々

株式会社タウンマネジメント石垣 石田さん

## IX. 指導教員コメント

本研究は、石垣島の観光スポットを調査したものである。石垣と言えば、川平湾が有名であるが、地元の人々の生活を知る上でかっこうな公設市場を観光スポットとして研究対象とした点は、総合学習を進めることとも関わって良かった。研究して分かったことの一つに、糸満婦人の石垣での活躍があることをあげていたのは、興味深い。

(梶村光郎)